

### 第3回東京水道グループコンプライアンス有識者委員会 議事概要

1 日 時 令和元年7月29日(月) 午後1時から午後2時50分まで

2 場 所 東京都庁第二本庁舎10階213・214会議室

3 出席者

**【委員】**

幸田委員長、中西委員長代理、羽根委員、矢野委員(五十音順)

**【水道局】**

水道局長、技監、多摩水道改革推進本部長、理事、  
経営改革推進担当部長、職員部長、経理部長、浄水部長、  
総務課長、調整担当課長、主計課長、経営改革推進担当課長、人事課長、  
コンプライアンス監理担当課長、コンプライアンス推進担当課長、契約課長、浄水課長

**【政策連携団体(東京水道サービス株式会社)】**

特命担当理事、経営管理室長

4 会議の概要

(1) 水道局長挨拶

- 本日は、皆様、大変お忙しい中、また非常に暑い中ではございますが、第3回東京水道グループコンプライアンス有識者委員会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
- 冒頭に先立ちまして、私から一言御報告がございます。既に報道等で御承知かと存じ上げますけれども、浄水場の排水処理委託に関しまして複数の当局職員が情報漏えいを行っていたとして、先日、公正取引委員会から入札談合等関与防止法に基づく改善措置要求等を受けたところでございます。
- 情報漏えいなどの不正行為は当然ながら決してあってはならないこととございまして、今回このような指摘を受けたことを私どもとしましても大変重く受けとめております。心よりお詫び申し上げたいと思います。
- 今後は、事実関係を徹底調査の上、関係の職員や事業者に対しましても厳正に対処いたしますとともに、さらなる再発防止策を図るようしてまいります。また、その内容につきましてはこの委員会でも御報告をさせていただきたいと考えております。
- 本日の第3回委員会では、ただいま申し上げました公正取引委員会からなされました改善措置要求等に関する御報告に加えまして、第2回委員会での御意見を踏まえまして政策連携団体に対する特別監察の改善策及び東京水道グループが抱えます構造的な課題につきまして御報告をさせていただきます。

- 政策連携団体に対する特別監察の改善策につきましては、本日の第3回の議論で一定のまとめをしていただきまして、委員の皆様から賜りました御意見を新会社の内部統制につなげてまいりたいと考えております。また、東京水道グループが抱える構造的な課題につきましては、水道局で実施してまいりましたリスクの洗い出し結果などを今回御報告させていただく予定でございます。
- 限られた時間ではございますが、委員の皆様にはぜひ忌憚のない御意見、御発言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 簡単ではございますが、これで御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## (2) 議事

- ア 公正取引委員会からなされた改善措置要求等に関する報告
- イ 政策連携団体に対する特別監察
- ウ 東京水道グループにおける構造的課題

## (3) 議事に関する主な意見の内容

### ア 公正取引委員会からなされた改善措置要求等に関する報告

- 公正取引委員会からの改善措置要求等に基づいて、必要な改善措置を講じるための検討を行ってほしい。

### イ 政策連携団体に対する特別監察

- 事業継続計画（BCP）は、計画を策定して終わりというものではなく、内容を社員に知ってもらうことが重要。そのため、机上訓練や実地訓練などを実施し、万が一のときに計画を活かせる体制を構築すべき。
- 最近大会社でも経営者の不祥事が発生しているので、監査室などが経営者をしっかりと牽制するシステムを検討すべき。
- 監査室とリスク管理委員会は、両組織の関係が分かりづらいので、社内における両組織の位置づけや役割を整理すべき。
- 監査等委員会と監査室の両組織は紐づけておくべき。その上で、リスク管理委員会の位置づけが重要になる。パターンは色々あると思うので、PUCとの統合を見据え、組織をどのように位置づけるか検討が必要
- 内部統制を構築するに当たっては、業務フローに基づくリスクの洗い出しとその対

処方針を策定することが重要となるので、今後しっかりと検討してほしい。

- 特別監察結果改善報告書については、この内容をベースにとりまとめてほしい。

#### ウ 東京水道グループにおける構造的課題

- 短期間でリスクを洗い出したことによる反省点もあるようだが、コンプライアンスに関する意識付けという観点では、1回で終わらせるのではなく、継続的に実施してトレンドを見ることが重要。実施に当たっては、できるだけ簡便に参加できる形とし、自分たちが意見した結果がきちんとフィードバックされる、あるいは業務改善に生かせるという全体の仕組みを構築することが必要
- 例えば契約や情報管理など、1か所で問題が発生したら他部署でも注意し、リスクを低減させるために組織全体に徹底することが重要であり、組織横断的に共通する事項と各部署で固有のものは区分していくことが必要
- 自治体の場合、引継ぎが非常に重要で、業務を引き継ぐ際に、業務の注意点も引き継がれ、同じミスが起きないようにすることが重要。年度末に業務におけるリスクなどを整理して、内部統制の担当部署がきちんとチェックし、共有する取組は非常に有効。定期的にリスクを認識し、問題が顕在化しないようにすることは重要なので、そういった点について常時取り組める体制、職員の認識を作り上げることが必要
- 業務フローの作成については、民間企業でもそうだが、全ての部署で作成するというわけではなく、重要な部分について作成することが一般的
- 東京水道グループの構造的課題は、範囲が広い議題であり、この内容について最終的に何に向けて議論するかが現時点では不明確な状況。局としてこういったことの検証を求めるかについて整理することが必要